

神奈川県議会 一般質問

日付：平成 28 年 9 月 26 日

1. 集中豪雨からの避難対策について

台風や低気圧等がもたらす集中豪雨は、気象情報等によってある程度の予測が可能であることから、その被害から逃れるためには、危険な場所から迅速かつ確実に避難することが大切である。近年の集中豪雨では、自治体からの避難勧告の遅れや、避難に関する情報への住民の理解不足などが課題として指摘されている。

住民に対する直接の避難対策は、一義的には、市町村の役割であるが、県の災害情報の発信のあり方や、市町村への速やかな伝達のあり方など、県と市町村がしっかりと連携し、対応していく必要がある。

そこで、近年頻発している集中豪雨において、避難勧告の遅れなどの課題が指摘されているところであり、こうした集中豪雨に際しての避難対策について、県全体として、今後、どのように取り組んでいくのか、見解を伺いたい。

2. 動画を活用した観光プロモーションについて

今後、一層、世界に本県の PR や情報発信を行い、観光需要を掘り起こす必要があるが、訪日外国人観光客の多くが、その土地を訪れた人が撮影した動画などを見て、訪問地を決めることが主流になっている。このような個人が発信している動画には、普段気が付かない新たな視点やアイデアが詰まっており、国内外からの観光客を呼び込むためのプロモーションツールとして有効であると考えます。県でも、県民等から動画を集めて発信すれば、本県の魅力を多くの人に伝えられるだけでなく、ガイドブックなどに載っていない、観光スポットの発見にも繋がると考えます。

そこで、より多くの人に神奈川の魅力を伝える観光プロモーションの実施には、動画の活用が重要と考えますが、見解を伺いたい。

3. ヘルプマークの普及について

障害を持つ方には、義足や人工関節を使用している方や内部障害や難病の方など、外見だけでは援助や配慮を必要としているかどうか分からない方も多く、東京都では、このような方が周囲の方に配慮を必要としていることを知らせ、援助を得やすくなることを目的とした「ヘルプマーク」を作成し、普及を図っている。このヘルプマークは、京都市府でも本年 4 月から普及を開始し、全国的にも活用が広がり始めていることから、東京都と隣接する本県においても、ヘルプマークを普及する必要があると考えます。

そこで、外見からは障害があると分かりにくい方が、必要な配慮や支援を受けやすくなるよう、本県においても、ヘルプマークの活用を進めるべきと考えますが、見解を伺いたい。

4. 高齢者などの社会参加を促す取組みについて

県では、「食」「運動」「社会参加」による未病を改善する取組みを進めているが、人との交流を通じて楽しみや生きがいを見つけられるような社会参加を促す取組みが重要であり、例えば、高齢者などの「お洒落」を推進することも外出への意欲を高め、社会参加につながる。最近の県の未病対策の取組みとして、市町村設置の未病センターの活動充実のために、企業の協力を得て、健康支援プログラムを提供する仕組みをスタートしているが、食や運動に関するものが多いように思われ、社会参加を促すプログラムの充実も必要と考えます。

そこで、「食」「運動」「社会参加」による未病を改善する取組みを身近な場所で体験・実践できる未病センターでの健康支援プログラムの現状と市町村や企業の反応について伺いたい。また、今後、高齢者も含め、広く県民の社会参加や交流を促すようなプログラムの提供を企業に働きかけ、充実を図るべきと考えますが、併せて見解を伺いたい。

5. レクリエーションスポーツの推進について

インディアカやグラウンド・ゴルフといったレクリエーションスポーツは、年齢や障害の有無を問わず、誰でも簡単に参加できるとも良い運動である。地域においてレクリエーションスポーツを行う団体は、体育館やスポーツセンターなど、身近な場所で日々の活動を地道に続けており、高齢者のスポーツの機会創出や地域コミュニティの活性化にも大いに役立っている。また、超高齢社会を迎え、健康寿命を延ばし医療費を軽減させることは重要な課題である。そのため、競技人口の多いメジャーなスポーツだけでなく、高齢者も含めて誰もが楽しめるレクリエーションスポーツも今後は更に推進し、支援していくべきと考える。

そこで、レクリエーションスポーツについて、一層の推進を図るべきと考えるが、見解を伺いたい。

6. 神奈川県産木材の産地認証制度の取組みについて

「かながわ県産木材産地認証制度」は、産地の明確な木材の安定供給を促進するために創設され、県産木材の利用を進めるうえで重要な役割を担っている。

しかし、この制度で産地認証されるのは、県産木材を使用して生産される木材製品の半分程度である。特に、合板や集成材といった木材製品については、県外の工場で加工されており、そうしたものの多くは産地認証を受けていない。

県外の工場で加工される木材製品が、少しでも多く産地認証を受け、県民に提供されれば、より広く、県産木材の普及促進が図られるとともに、県内での利用拡大につながると考える。

そこで、神奈川県産木材の産地認証制度について、現在どのように取り組んでいるのか、また、今後どのように取り組まれるのか、併せて見解を伺いたい。

7. 地域と連携した学習活動について

近年、地元の活動に参加する若者が少なくなっており、地域の伝統行事などが伝承されなくなることが懸念されるため、積極的に地域の活動等に参加する若者を増やすことが重要であることから、地域に存在する学校の役割は大きいと考える。以前から大学等において、学生が地域社会の課題を解決する活動を通して学ぶ「サービス・ラーニング」が展開されており、高等学校でもこの考え方を取り入れることで、地域の活動に参加する若者が増えるきっかけとなり、それが、地域への愛着を育み、社会貢献の意識向上につながるのではないかと考える。

そこで、県立高校生が地域と連携した学習活動を通して、地域に関心を持ち、地域への理解を深める心と態度を育成するために、どのように取り組んでいくのか、現在の取り組み状況と今後の方向性について、見解を伺いたい。